

都医NEWS

Vol. 683

年頭所感	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
東京都予算に対する知事ヒアリング ほか	03
東京都医師会 定例記者会見 ほか	04
みどりの広場 ほか	05
都医からのお知らせ ほか	06
地区医師会長からの一言	07

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部77円



年頭所感



新しい年を ポストコロナにつなげていくために



公益社団法人東京都医師会
会長 尾崎 治夫

明けましておめでとござい
ます。会員の先生方におか
れましては、新型コロナウイルス
感染症対策並びに日々の
診療等に尽力いただき、心
より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの 行く末

新年は、悪くすると新型コ
ロナとインフルエンザの同時
流行で迎えることになるかも
しれません。

新型コロナウイルスの重症者を拾い
上げ死亡者を少なくするこ
と、すなわち重症化しやすい
人を早期に見極め、きちんと
入院させられる仕組みを作る
こと。地域医療を担っている
多くの診療所や中小病院が、
新型コロナウイルス以外の発熱患者さ
んをしっかり診てくれるよう
になること。

ポストコロナに やってくる 少子超高齢社会

新型コロナウイルスの収束
は現実のものとして視野に
入ってくるでしょう。

新型コロナウイルスもひと段落と思
うのも束の間、団塊の世代が
全て75歳以上の後期高齢者
となる少子超高齢社会の入り口
が、2年後の2025年に
迫っています。

人口が減らず、住環境の悪
いなかで単身者や高齢者のみ
の世帯がどんどん増えていく
東京都では、コロナ禍で24時
間支援体制や地域包括ケアシ
ステムの基盤が整ってきたと
はいえ、まだまだ準備すべき
体制がたぐさん残っています。
歯止めがかからない少子
化の波をどう食い止めるか、
今年4月に設置される予定の
ことも家庭庁がどのような骨

組みでスタートするのかに
も注目していく必要がある
ます。

東京都医師会では昨 years か
ら、ウィズ/ポストコロナ時
代における医療提供体制の抜
本的な改革と社会保障の理想
像について検討する「TMA
近未来医療会議」を立ち上げ
ました。新型コロナウイルス
得たさまざまな教訓をスター
トとして、財源論も含め、2
040年までを見据えた医
療・介護・福祉の体制維持に
向け、議論を続けているとこ
ろです。私が会長に就任して
から4期目となる現執行部が
終わるまでに何らかの結論を
出し、会員の皆さんに近未来
の東京都の医療のあるべき姿
を提示したいと考えていると
ことです。

乗り切るための財源論 防衛費GDP比2%の 前に国民・都民のため にやるべきこと

高齢化と医療の進歩に伴
い、当然のように医療費は増
えていき、介護費用も当然増
えていきます。しかし、いま
だ根本的な財源確保の議論は
なされていない状態です。財
源がなければ、増大する医療
・介護費は捻出できず、更に強
い形で医療・介護費の抑制政
策がとられる可能性が出てき
ます。国民皆保険制度の維持
は危うくなり、介護難民の増
加も容易に予想されます。高
額所得者に対する所得税や企
業の内部留保、高齢者の金融
資産や相続税等を財源に充て
るといった考えもあるようで
すが、やはり消費税で広く平
等に負担していくことが良い
と思います。

慶應義塾大学経済学部の井
手英策教授は、将来への不安
から消費せず貯蓄に回してし
まう現在の不況から抜け出す
ための方法として、「ベーシッ
クサービズ」を取り入れるこ
とを提案しています。消費税
を16〜19%に上げて教育・医
療・介護等にかかる費用を無
償化することで、誰でもサー
ビズを受けられるようになり、
人々が社会で安心して暮
らすことができるという概念
です。検証は必要ですが、や
はり社会保障財源、特に医療・
介護関係については、私たち
医療者も他人事とは思わず、
素人なりにしっかり考え、意
見を述べていくべきであらう
と思います。

政治家の方々は、細かい現
状分析なしに「世界に冠たる
国民皆保険制度」と口にしま
すが、その制度の持続が明ら
かに赤信号になっている時、
真っ先に日本をとるべき道は
この財源確保であり、内容の
不透明なNATO加盟国同様
のGDP比2%への防衛費増
額に向けた決断の前に、社会
保障財源をいかに確保する
か、そしてタブーに近い状態
になっている消費税増税につ
いての議論を始めるべきでは
ないでしょうか。

今年も予測できない展開が
待っているような気がいたし
ます。会員諸氏におかれまし
ては、東京都医師会のもと
に団結し、東京都の医療を
守るために頑張ってください
ましょう。



謹賀新年

令和5年、癸卯(みずのと・う)。
うさぎがぴょんと跳ねることから、うさぎ年は運が上向
きに跳ねる、景気が回復するといわれる。また穏やかな
うさぎの様子から、卯年生まれの人には温和で人懐こい性
格も。「飛躍」や「向上」の象徴としても親しまれてき
たうさぎ。新型コロナウイルスで沈んでいたここ数年から、大き
く飛躍し、暮らしが向上する一年になることを祈りたい。

底流

高齢者の転倒は老年症候群の代表的な症候である

— 介護施設内の転倒に関する —

日本老年医学会の調査研究から

過度の転倒予防が「自立支援のためのケア」を後退させないよう、日本老年医学会は全国老人保健施設協会と共同で「介護施設内での転倒に関するステートメント」を出している。

の頻度で発生する」と結論づけた。

これを受けて令和3年6月、日本老年医学会と全国老人保健施設協会は共同で次のような「介護施設内での転倒に関するステートメント」を発表した。

1 転倒すべてが過失による事故ではない
そもそも転倒リスクが高い施設入所者に転倒予防策を実施しても、一定の確率で転倒が発生する。よって、必ずしも医療・介護現場の過失による事故と位置付けられない。

2 ケアやリハビリテーションは原則として継続すべきである
入所者の生活機能を維持・改善するためのケアやリハビリテーションによって、活動性が高まり転倒リスクを高める可能性もある。しかし、生活の質の維持・向上が期待される以上、原則として継続する必要がある。

3 転倒についてあらかじめ入所者・家族の理解を得ること
転倒は老年症候群の一つであること、あらかじめ職員や入所者、家族などの関係者の間で共有する必要がある。

4 転倒予防策と発生時対策を講じ、その定期的な見直しを図る
施設は、転倒予防策に加え発生時の適切な対応手順を整備し職員に周知することも必要である。

5 転倒防止に努める。
「自立支援のためのケア」を更に推進していくため、我々はこのステートメントとエビデンスとなった調査研究結果を世間に普及・啓発していくとともに、法曹界に対しても正しい情報を提供していかなければならない。

(平川博之)

地区医師会長 連絡協議会報告

令和4年12月16日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) TMA近未来医療会議「第3回公開シンポジウム」の開催について
標記会議では4つの論点に分けて議論を重ねており、第3クールでは「コロナ対策の評価を踏まえた平時と有事の医療供給体制」について検討した。このたび、公開シンポジウムを1月13日(金)午後3時半より東京都医師会館でハイブリッド形式により開催し、取りまとめた提言を発表する。地区医師会の役員をはじめ、多くの会員にご参加

(2) 高齢者・障害者入所施設での新型コロナウイルススクランニング検査結果について
本会より地区医師会に協力ををお願いした標記調査の結果がまとまったので、報告する。

(3) 新型コロナウイルス感染症について
医療機関での診療・検査体制を整えるため、各医療機関における各種検査キットの確保をお願いする。また、東京都では「東京都臨時オンライン発熱診療センター」を開設

(4) 城南ブロック
(5) 城北ブロック
(6) 多摩ブロック
(7) 大学ブロック

(1) 中央ブロック
(2) 城東ブロック
(3) 城西ブロック

(1) 第39回江戸川医学会について
(2) 江戸川区医師会

(1) 世田谷区医師会創立90周年

記念式典・祝賀会について
(世田谷区医師会)

落合和彦理事が慈恵医師会長として挨拶するとともに、尾崎治夫会長からの挨拶文を代読した。

基調講演では、東京慈恵会医科大学小児科学講座担当教授の大石公彦氏が「海外でのキャリアへの挑戦」と題して、米国での23年間の経験について講演した。人と人の「縁」、そして「チャンス」をいかにして掴むかなど、医学生や研修医にも参考になる内容であった。

続いて行われたシンポジウム

今後のシンポジウム

令和4年度

「医学生、研修医等をサポートするための会」

— 輝くロールモデルを見つけよう —



大石氏
ムでは、「ロールモデルを見つけよう」をテーマに3名の演者が講演した。最初に登壇した東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学教室・再生医学研究部の栗原渉氏からは、耳鼻咽喉科から再生医学研究部に出向した動機や、そこでの「気づき」がその後の臨床にも生かされていることなどの紹介があった。

令和4年度東京都医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」が、東京慈恵会医科大学と慈恵医師会の協力ののもと、12月3日(土)に東京慈恵会医科大学およびWEB配信のハイブリッド形式で開催された。本講演会は日本医師会と東京都医師会の共催事業であり、男女共同参画の観点から適正なキャリア形成を果たすことで、医師としての多様な能力の発揮につながることを目的としている。今年度は、東京都医師会の市川菊乃理事の司会進行で行われ、落合和彦理事が慈恵医師会長として挨拶するとともに、尾崎治夫会長からの挨拶文を代読した。

基調講演では、東京慈恵会医科大学小児科学講座担当教授の大石公彦氏が「海外でのキャリアへの挑戦」と題して、米国での23年間の経験について講演した。人と人の「縁」、そして「チャンス」をいかにして掴むかなど、医学生や研修医にも参考になる内容であった。

続いて行われたシンポジウム

今後のシンポジウム

今後のシンポジウム

今後のシンポジウム



シンポジウムの様子

令和4年度

東京都予算に対する
知事ヒアリング

11月25日(金)、都庁において令和4年度東京都予算に対する知事ヒアリングが行われた。東京都医師会からは尾崎治夫会長、猪口正孝・角田徹・平川博之各副会長が出席した。ヒアリングでの東京都医師会および東京都の発言を次のとおり要約する。

尾崎会長

地域包括ケアシステムにおいて、このコロナ禍で構築された24時間の多職種支援体制を継続・発展させることが重要である。病診連携についても、都立病院のみならず民間病院にも健全経営のための支援をお願いしたい。2040



東京都予算に対する要望書を小池知事に手渡す尾崎会長

年には高齢の医師が地域包括ケアシステムを担うことになり運用が困難になるため、現在30〜40代の医師を対象とした総合診療医の育成を行う仕組みづくりについて検討をお願いしたい。また、地球温暖化や自然破壊が進み、パンデミックや災害が起ることを想定して、平時に余力がある医療体制を構築しつつ、有事の際に医療逼迫を避けるための体制構築も必要である。各年代を通じて予防医療・健

猪口副会長

通常医療を転用してコロナ病床や災害時用の病床を設置するには限界があり、第5〜7波でも病床増は困難であった。今後の災害やパンデミックに備え、サーキットパシ

角田副会長

ティの確保が必要である。平時はシミュレーショントレーニングセンターとして人員を養成する訓練の場に活用し、有事の際には各病院で事前に登録した医療者が集合して1000床規模の医療提供体制がとれるような臨時医療施設の設置をお願いしたい。

周産期から高齢者までの各ライフステージの切れ目ない予防医療・健(検)診体制の充実のため、かかりつけ医機能が求められており、その役割を果たし応えていくための支援をお願いする。また、新型コロナウイルス感染症をはじめとした新興・再興感染症対策については、かかりつけ医等を含めた通常医療と、感染症蔓延時の有事の医療体制は全く異なっている。それを踏まえた医療提供体制のより一層の充実が求められており、特別な入院施設の確保が極めて重要である。

平川副会長

第7波では職員が多数感染したため、従来の防御策では高齢者施設への感染侵入を防げなかった。そこで、今回抗体検査の活用を提案したい。先行研究では、高齢者の約10%にワクチン接種後も十分な抗体が獲得できない群の報告がある。抗体検査は、感染リスクの高い者の早期発見やワクチン接種時期の判断等での活用が期待される。今回、同検査を施設職員に実施したところ、①ワクチン4回接種後も十分な抗体を獲得できない者がいる、②抗体価の減少には個人差があり一律の接種間隔は合理的でない、③感染しても十分な抗体を獲得していない者がいる、④ワクチン接種と感染により高い抗体価を持つ者がいる、ことがわ

東京都福祉保健局

かった。本検査であらかじめ感染弱者を抽出できれば、より効率的な感染対策が可能となる。他にも、抗体価の高い高齢者の面会制限の緩和や、レッドゾーン勤務者を選別する際の指標になると考えている。高齢者施設の新たな感染対策として、本検査の実施支援をお願いしたい。

小池都知事

コロナ禍では、自宅療養者への24時間の支援体制が構築されるなど、地域包括ケアシステムの先行演習ができてい

第26回 板橋区医師会医学会

12月3日(土)、4日(日)に、第26回板橋区医師会医学会が板橋区立文化会館で開催された。令和元年の第24回板橋区医師会医学会を開催した後に新型コロナウイルス感染症が流行し始め、その影響で令和2年度は中止、令和3年度は演題発表と教育講演のみがWEB形式で開催された。今年度は久々の参集形式であったが、例年と比べて規模を縮小しての開催となった。演題発表は本来4会場で行われていたが、今回は2会場となり、2日目に開催された区民公開講座も午後のみ実施となった。初日の演題発表は、「新型コロナウイルス感染症に関する予防、検査、診断、治療、および在宅医療での問題点など」をテーマとした要演で、医療関係の多職種から多くの参加があった。教育講演では、東京大学大学院医学系研究科医療情報学分野教授の大江和彦氏が「AI技術の発展と医



第26回板橋区医師会医学会区民公開講座

療への応用」の講演を行い、「フレイル・認知症予防...100歳時代 人生の後半をどう生き抜くか」と題して、東京都健康長寿医療センター理事長の鳥羽研二氏が講演を行った。板橋区医師会理事の大野安美氏が「病院・診療所の役割の違いと地域医療連携について」の講演を行った。次の特別講演では、

世田谷区医師会創立90周年 記念式典・祝賀会

—松本吉郎日本医師会会長を迎えて—

11月26日(土)に都内ホテルにおいて、多数の会員と来賓の出席のもと、世田谷区医師会創立90周年記念式典・祝賀会が盛大に開催された。

記念式典は、土方聡世田谷区医師会副会長の開会の辞、窪田美幸世田谷区医師会長の挨拶で始まった。来賓の松本吉郎日本医師会会長、尾崎治夫東京都医師会会長からの祝辞に続き、祝電が披露された。次に、永年開業会員と長寿会員の祝賀、長年勤続者表彰が行

われた。太田雅也世田谷区医師会副会長の閉会の辞をもって記念式典は終了した。

会場を移して行われた祝賀会は窪田会長の挨拶で始まり、保坂展人世田谷区長、吉本一哉玉川医師会会長をはじめとして来賓の祝辞が続いた。更に、世田谷区医師会役員紹介が行われた。乾杯後の和気あいあいとした宴のなか、世田谷区医師会の長い歴史を物語る数々の写真が前方の大きなスクリーンに映し

出され、その時代ならではの会員同士の親睦や地域医療の様子が見られる、ほのぼのとしたひとときとなった。アトラクションとしては、世田谷区医師会役員がボーカルで参加するバンドによる演奏が披露された。後半は



窪田世田谷区医師会長

懐かしい曲の数々が演奏され、会場が一体となった合唱もあり、盛大な喝采が送られ、参加者は楽しい時を過ごした。

東京都医師会 定例記者会見

新型コロナの問題点を踏まえ、新たな分類体系を

し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等について見解を示した。

尾崎治夫会長は「年末年始を迎える前に、新型コロナウイルスとインフルエンザのワクチン接種を済ませることが望ましい。特

に、現在、新型コロナウイルスの感染症上の類型について議論が進んでいるが、新型コロナにふさわしい「5類相当」などの新たな分類体系を検討すべきだ。2類相当からインフルエンザと同様の5類にし

た場合、重症化しやすい高齢者等とコロナ患者が同じ待合室に入ることになり、感染が広がる恐れがある。やはり新型コロナに関しては、あらかじめ抗原検査で陰性を確認したうえで受診するよう形にしなければ、動線を分けられない診療所では診察が難しい。高齢者等をどう守り、後遺症の問題をどのように減らしていくかを踏まえたい。また、新しい分類を考えるべきで、新しい分類を考えるべきだ。高齢者や基礎疾患のある方の治療・ワクチン接種は引き続き公費負担とする」と

また、「現在、新型コロナウイルスの感染症上の類型について議論が進んでいるが、新型コロナにふさわしい「5類相当」などの新たな分類体系を検討すべきだ。2類相当からインフルエンザと同様の5類にし

た場合、重症化しやすい高齢者等とコロナ患者が同じ待合室に入ることになり、感染が広がる恐れがある。やはり新型コロナに関しては、あらかじめ抗原検査で陰性を確認したうえで受診するよう形にしなければ、動線を分けられない診療所では診察が難しい。高齢者等をどう守り、後遺症の問題をどのように減らしていくかを踏まえたい。また、新しい分類を考えるべきで、新しい分類を考えるべきだ。高齢者や基礎疾患のある方の治療・ワクチン接種は引き続き公費負担とする」と

また、「現在、新型コロナウイルスの感染症上の類型について議論が進んでいるが、新型コロナにふさわしい「5類相当」などの新たな分類体系を検討すべきだ。2類相当からインフルエンザと同様の5類にし

た場合、重症化しやすい高齢者等とコロナ患者が同じ待合室に入ることになり、感染が広がる恐れがある。やはり新型コロナに関しては、あらかじめ抗原検査で陰性を確認したうえで受診するよう形にしなければ、動線を分けられない診療所では診察が難しい。高齢者等をどう守り、後遺症の問題をどのように減らしていくかを踏まえたい。また、新しい分類を考えるべきで、新しい分類を考えるべきだ。高齢者や基礎疾患のある方の治療・ワクチン接種は引き続き公費負担とする」と

た場合、重症化しやすい高齢者等とコロナ患者が同じ待合室に入ることになり、感染が広がる恐れがある。やはり新型コロナに関しては、あらかじめ抗原検査で陰性を確認したうえで受診するよう形にしなければ、動線を分けられない診療所では診察が難しい。高齢者等をどう守り、後遺症の問題をどのように減らしていくかを踏まえたい。また、新しい分類を考えるべきで、新しい分類を考えるべきだ。高齢者や基礎疾患のある方の治療・ワクチン接種は引き続き公費負担とする」と



尾崎会長

東京都医師会は12月13日(火)に定例記者会見を開催し、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種をまだ受けていない

医師国保からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症に対する本組合の対応について

～傷病手当金・見舞金を支給いたします～

- 新型コロナウイルスに感染した、または感染が疑われる被用者の方に、傷病手当金を支給します。
- 被用者に該当しない第1種組合員の方には、傷病見舞金を支給します。
- 療養のため労務に服することができない期間のうち、就労を予定していた日が対象です(給与(報酬)の支払いがないことが条件となります)。

詳しい内容、申請方法等はホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6434 (業務課)

東京都医師会囲碁大会中止のお知らせ並びに 日本医学会総会ソーシャルイベント囲碁大会のお知らせ

2月5日(日)に開催を予定しておりました春の個人戦は、昨今の新型コロナウイルス感染症の再拡大の状況を鑑み、中止いたします。誠に残念ではございますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

なお、日本医学会総会のソーシャルイベントでは囲碁大会が開催されますので、ぜひご参加ください。

日時: 4月23日(日) 9:30集合

会場: 日本棋院2階大ホール

参加費: 無料(先着100名)

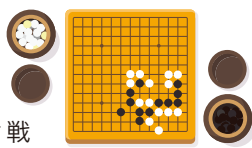
手合い: 6段以上は互先、5段以下はハンディ戦

申込方法: 住所、氏名、連絡先、棋力を明記のうえ下記へお申し込みください。

申込先: 品川区医師会 櫻井幸弘

Fax: 03-3445-1815 メール: neige-2@gold.ocn.ne.jp

締め切り: 2月28日(火)



178 みどりの広場

日本医学会総会企画 展示について

第31回日本医学会総会 展示委員長 順天堂大学医学部放射線診断学講座 教授 青木茂樹



第31回日本医学会総会が「ビッグデータが拓く未来の医学と医療〜豊かな人生100年時代を求めて〜」をテーマとして、2023年4月に東京都で開催される。本総会は、5つの柱に基づいたプログラムからなる「学術集会」、医療従事者を対象とした「学術展示」、一般市民を対象とした「博覧会」から構成されており、医療従事者約3万5千人、一般市民約50万人を動員する日本最大の医学系イベントとなっている。学術展示は、最新の医療機器や医療情報システム、施設運営サポートなど、広く医療従事者に役立つ企業展示として、学術集会の会場と同じ、東京国際フォーラムにて開催される。このため、1653年に江戸幕府老中であつた川越藩主松平信綱が、多摩川の水を羽村から四谷まで引き（高低差92m、全長43km）、玉川上水を開削しました。使える水は乏しく、野菜と麦が主な作物で水を得ることが困難な原野でした。このため、1653年に江戸幕府老中であつた川越藩主松平信綱が、多摩川の水を羽村から四谷まで引き（高低差92m、全長43km）、玉川上水を開削しました。使える水は乏しく、野菜と麦が主な作物で水を得ることが困難な原野でした。

通常の医学会における学術展示とは大きく異なり、医療領域を限定せず、さまざまな分野の展示が横断的に行われるのがその特徴だ。なかでも今回注目すべき点は、医学会総会として初めて開設されたダイバーシティ推進委員会による「スマートな働き方企画展示」である。ここでは、働き方改革に関連したさまざまな取り組みを行っている企業を紹介し、情報提供を行う。学術集会でもダイバーシティに関するプログラムを予定している。講演とあわせて足を運んでいただければと思う。一般市民向けの博覧会は、ホームページのほか、「Twitter」「Facebook」「Instagram」等でも随時情報発信を行っている。事前参加登録者限定のプログラムや、オンライン市民公開講座のアーカイブ配信等も予定されており、早く参加すればするほど医学会総会を満喫できる仕掛けとなっているので、ご家族揃っての参加を計画している。

第31回 THE 31st GENERAL ASSEMBLY OF THE JAPAN MEDICAL CONGRESS 日本医学会総会 ビッグデータが拓く未来の医学と医療 豊かな人生100年時代を求めて

学術集会	2023年 4月21日(金)~23日(日)
学術展示	2023年 4月20日(木)~23日(日)
博覧会	2023年 4月15日(土)~23日(日)

会場：東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリア
会期：春日雅人 朝日生命成人病研究所長 国立国際医療研究センター名管理事務長

【学術集会】 2023年4月21日(金)~4月23日(日)
【学術展示】 2023年4月20日(木)~4月23日(日)
【博覧会】 2023年4月15日(土)~4月23日(日)



玉川上水緑道、小川水衛所付近の紅葉

小平市 郷土名物・糧うどんと希少フルーツ

趣味の散歩

武蔵野台地の「うどん」は、麦の風味とコシの強さが魅力。つゆに入れるのは、小平では「糧（かて）」と呼ばれる季節の野菜です。うどんを節約するために、糧をかさを増やしたそうです。「糧うどん」は、冠婚葬祭など特別な日にだけ振る舞われましたが、今では

郷土料理として市内にうどん店が点在し、「糧うどん」の文化を守っています。また、市内には農家直売所が200箇所以上あり、旬の農産物を販売しています。特に、ブルーベリーは1968年に本邦で初めて農産物として市内で栽培が始まり、摘み取り体験ができる農園があります。キウイフルーツの一品種「東京ゴールド」は、市内の農家で発見されたもので、2013年に農林水産省で品種登録されました。果肉が鮮やかな黄色で、縦に切った時の形がハート型に見え、程よい酸味と強い甘みがある希少品種です。

小平にお越しの際には、「糧うどん」と特産の果実をご賞味いただければと思います。(小平市医師会・伊藤敬雄)

第31回日本医学会総会でも一般市民向けの展示会は開催されていたが、学術集会とは時期をずらして行っていた。今回は、学術集会と会期および会場が重なるため、家族で医学会総会にご参加いただき、博覧会で医療について楽しく学びながら、日頃の医師の仕事についてコミュニケーションを取りたいという声から、またよい機会と捉え、

第31回日本医学会総会 2023東京博覧会ホームページ <https://isoukai2023.jp/> 第31回日本医学会総会 2023東京博覧会ホームページ <https://isoukai-expo.jp/>



知っていますか?

mPIS (喘息発作スコア)

従来の喘息発作強度は小発作、中発作、大発作に分類されている。mPISは心拍数、呼吸数、呼吸補助筋の使用、呼気：吸気比、喘鳴の程度、酸素飽和度 (SpO₂) の6項目を0~3まで点数化し、その総数(0~18点)で発作強度を判定する。発作強度の点数化により医師の経験の差にとらわれない治療の均てん化が図られ、治療効果の判定に有用な指標となる。

掲示板

認知症の親を 介護している人の心を守る本 疲れたとき、心が折れそうなときの ケース別対処法 西村知香 監修



本書で目を引くのは、読者にフレンドリーな点である。内容も分かりやすく、イラストも交えて簡潔にまとめられ、介護に疲れていたたり、元気がない人でも、読みやすい工夫されている。見出しにより、関心のある部分の情報にも行き着きやすい。

本書では「介護者の『できる範囲の持続可能なケア』なんでも頼る精神」が謳われている。理想と現実とで悩むことも多い認知症ケアの現場で、柔軟な考え方を身につけるとは、ケアのストレスを和らげ、より良い選択を可能とするだろう。セルフケアやサポートを得る重要性、アンガーマネジメント、具体的な問題解決等についても述べられている。

大切な人を介護するうえで迷うことも多いが、本書を参考に「これでよい」という気持ちで取り組まれる方が増えることを願いたい。

発行▼大和出版 価格▼1430円(税込)

無声拝聴

憧れのターボ

2021年1月、日本政府は2035年までに新車販売で電動車100%を目指す旨を発表した。実質、ガソリン車およびディーゼルエンジンは、新車販売が終了となる。

でも、ここでいう電動車とは、電気自動車や燃料電池自動車ではなく、ハイブリッド自動車やプラグインハイブリッド自動車、ガソリンエンジン発電機搭載電気自動車を含むので、なんとも中途半端な宣言である。

現在、東京の街でも充電スタンドや水素ステーションなどのインフラは大して増えておらず、結局は、まだまだガソリン車やディーゼルエンジン車が売られるのである。

そもそも、電気や水素を作るにはエネルギーが必要で、その過程で二酸化炭素

を出してしまうし、電気自動車のリチウムイオン電池だって古くなれば廃棄処理するのが大変だ。カーボンニュートラルとか、クリーンエネルギー自動車とか言われているが、問題が山積みである。

さて、子どもの頃からのいつかは乗りたい車種の1つに、お約束のポルシェがある。そのラインナップにも、「ポルシェ・タイカン」という電気自動車のスーパーカーがあり、そのグレードに「タイカン・ターボ」「タイカン・ターボS」がある。電気モーターに、エンジンの排気圧を利用するターボがあるわけなのに、何だ？その名前。今や「ターボ」の名は、ポルシェではハイパーをイメージさせる、ただのキーワードになってしまったようだ。

(大畑隆郎)

マスク着用がやはり最重要

新型コロナ対策は緩和されつつあり、海外では日本に先行して行動制限が緩められ、サッカーワールドカップのスタジアムの応援を見ても、マスクをしている人はほとんどいない。しかし、新型コロナの主な感染経路は病原体の吸入であり、接触感染のリスクは低い。新型コロナ感染に対する最も重要な予防策はマスク着用であり、universal maskingが提唱されてきた。

しかし、コロナ患者の減少とともにマスク不要論が台頭し、2022年2月に米国マサチューセッツ州では公立学校において、universal maskingの方針が撤回された。マスク着用をやめた学校(70校)と継続した学校(2校)の間で、学生とスタッフにおけるコロナ患者の発生率を、15週間にわたって検討した結果が最近報告された。マスク着用をやめた学校では、継続した学校に比べ、1,000人あたり44.9人のコロナ患者が増え、この地区のコロナ患者の29.4%を占めたという。特にスタッフの発症者が多かった。マスク着用を継続した学校の建物は古くて状態が悪く、教室内の学生数も多いというように状況が悪いにも関わらず、コロナ患者数が少なかったことで、マスクの有用性が指摘された。

今年は南半球でインフルエンザ(以下、インフル)の流行があったため、北半球でも流行すると予想され、米国ではすでに患者が増加している。更にRSウイルス感染症も増加しているが、いずれの国もマスク着用への意識は緩んでいる。南半球でも北半球でも、例年のインフルシーズンよりも早めに流行が始まったと指摘されている。しかし、日本では昨年より患者数はやや多いものの、早めに流行が始まっている印象はない。日本ではマスクの着用が続いているので、もしかするとインフルはそれほど流行しないのではと密かに思っている。

(文責：永井英明)

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ INFORMATION

日臨内「かかりつけ医のためのWEB講座」 ～スペシャリストがジェネラリストになるために～

問合せ先 日本臨床内科医会 E-mail: jpa@event-mhlab.jp

日時▶ 1月26日(木) 19時30分～21時45分

形式▶ WEB講演

セミナー▶ 「これからの認知症予防」朝田 隆(筑波大学 名誉教授)

①「腎臓専門医と繋がる有意義なCKD地域連携の構築～WIN-WINな関係を作るためにすべきこと～」八田 告(日本臨床内科医会 学術部腎・電解質班) ②「内科的疾患と心身相関の交わり～機能性消化管疾患の診断と対策編～」奥見裕邦(日本臨床内科医会 学術部心療内科班) ③「成人のワクチン：肺炎球菌ワクチンと带状疱疹ワクチンの最新情報」池松秀之(日本臨床内科医会 学術部感染症班)

取得単位▶ 日医生涯教育制度2単位(CC: 29, 76, 69, 8)

申込方法▶ 右記QRコードまたは当会ホームページをご覧ください。

参加費▶ 無料



第129回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

問合せ先 慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内
生涯教育研修セミナー事務局
TEL: 03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶ 2月25日(土) 15時～18時40分 会場▶ 経団連会館 2階「国際会議場」

講演会▶ 「認知症の人の生きるを支える」

モデレーター▶ 三村 将(慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 教授)

対象▶ 慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師

取得単位▶ 日医生涯教育制度3単位(CC: 5, 15, 19, 29) ※19, 29は各0.5単位

参加費▶ 無料・事前登録制(お申込多数の場合は先着順となります)

※詳細は慶應義塾大学医学部のWEBサイト(<https://www.med.keio.ac.jp/>)の「ニュース」にて後日お知らせします。また、定員に達した場合は、申込受付を締め切りますので、ご了承ください。

次回セミナー開催予定▶ 6月24日(土)

都医 HP・Eメール ■ ホームページアドレス <https://www.tokyo.med.or.jp>
■ Eメールアドレス jimu@tokyo.med.or.jp

地区医師会長からの一言

質の高い地域包括ケアシステムを目指して

西多摩医師会長 進藤幸雄



このたび、令和4年7月より西多摩医師会長を拝命いたしました進藤幸雄と申します。私の診療所は、これより先は単線・無人駅という青梅駅を最寄り駅とし、午前中は外来診療を、午後は主に在宅診療を行っております。

私が医師を目指したのは、昭和5年に進藤医院を開業した祖父の影響が大きいと思います。昭和初期の診療所は、野戦病院さながらにさまざまな病気や怪我、事故による負傷者などが次々と運び込まれてきたといいます。軍医として従軍歴の長かった祖父は、日中に診療や手術をこなし、夜には山を越えて往診に行ったそうです。そのような地域もやがて病院ができ、診療所が増え、今では西多摩地域全体で200を超える医療機関があります。

西多摩医師会は、青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町・檜原村の8市町村を1つの二次医療圏として擁しており、平成25年には100周年を迎えた歴史のある会です。100年以上の長きにわたり地域住民の命を守り、健康保持と公衆衛生の向上に邁進されてきた諸先輩医師たちの献身と努力の上に今の医師会が成り立っているということを胸に刻み、これからの100年の一端を担うこととなった重責に立ち向かわなければなりません。

西多摩地域の総面積は572.70km²で、東京都全体の26%を占めます。東西に長く、東は福生市などの市街地区からなり、西は奥多摩町や檜原村といった秩父多摩甲斐国立公園に含まれる自然豊かな町村部からなっています。日本の国土は7割が山間部、3割が都市部からなり、西多摩地域はちょうど日本の縮図のようです。

人口は減少傾向にあり、特に奥多摩町や檜原村は高齢化率50%超という少子高齢化の最前線にあります。住民が今後も安心して住み慣れた土地で暮らし、質の高い医療や介護を受けられるよう、地域包括ケアシステムの充実が急務です。そのためには、何ができていて何ができていないのか課題を明らかにし、目標達成を計画的に進める必要があります。実施主体は市町村ですが、各市町村それぞれに十分な医療・介護資源が揃っているわけではなく、市町村の枠を超えて連携協働する必要があります。従って、目的遂行のためには8市町村全てを擁している機関である医師会が主導すべきと考えております。医療機関同士はもとより、自治体、介護・福祉施設等と連携協働し、住民の方々の十分なヘルスリテラシーの向上を目指し、地域全体が一体となって進めていくことが必要です。

医師は医学・医術の発達に寄与し、自身の医療の研鑽に努めなければなりません。自身の研鑽のみならず、医療の公共性を理解し、医療を通じて社会の発展に寄与する社会貢献の理念を持たねばなりません。医師会はまさにこれを具現化する組織であり、地域医療に奮闘する医療機関を支えて連携し、地域が一体となって健康寿命の延伸や住みやすい地域づくりに貢献したいと考えております。もとよりそのような崇高な理念を持ち合わせていたわけではなく、医師会を支えてきた先輩医師たちの教えを自分なりに遂行したいと考えているだけで、甚だ不十分な新米会長ではありますが、1世紀以上支えてきた先輩医師たちを落胆させぬよう、精進に努めて参りたいと思います。

頌春

東京都医師会長 尾崎 治夫



上空から見た傘富士

練馬区医師会 鄭 正舟

11月末、秋晴れの日、飛行機の窓から運よく冠雪の二重傘富士が目に入って、カメラに収まった。

(SONY α-7 f9.5 1/350秒 ISO-100 焦点距離：70mm)